

---

**本会記事**

---

**2019年度秋季大会に向けて**

2019年度秋季大会は10月22日（火）～24日（木）の3日間、名古屋大学豊田講堂において開催します。講演特集として、(1)メカニカルアロイング技術の基礎と応用、(2)硬質（工具）材料の技術・研究における新たな展開、(3)磁性材料・磁気デバイスにおける微細構造制御と機能発現、(4)粉体グリーンプロセスにおける環境・エネルギー関連材料及び技術の新展開、(5)粉末積層3D造形技術とHIP/CIP、(6)バイオインスパイアード材料、(7)スマートソサイエティを支える高機能電子部品材料、(8)次世代自動車開発に向けた粉末冶金製品の新機軸の8テーマと企画セッションとして、(1)外場印加による粉体プロセスの新展開、の1テーマが行われます。詳細につきましては、<https://confit.atlas.jp/jspm2019a>をご覧ください。

名古屋での開催は6年ぶりですが、名古屋大学での開催は初めてです。会場は、名古屋駅から地下鉄で25分、3番出口から出れば、目の前に会場となる豊田講堂があります。豊田講堂の建物の前には芝が綺麗に整備されており、温かい日には芝に腰を下ろしのんびりとすれば、心も頭のリフレッシュできそうです。

会場となる名古屋大学豊田講堂は、1960年に横文彦の設計で名古屋大学東山キャンパスの中心に鉄筋コンクリート造・打放しコンクリートの地下1階・地上3階で建てられ、名古屋大学のシンボルとなっています。1962年には日本建築学会賞を受賞しており、横文彦氏の代表的な建築物の一つとして建築学会では大きな評価を得ています。また、1993年に名古屋市の都市景観重要建築物に指定、2003年にはDOCOMOMO JAPAN選定日本におけるモダン・ムーブメントの建築に選定されました。また、2008年には、1992年竣工のシンポジオンの間にアトリウムを新設して施設の一体化による機能拡充がなされ、国際会議等における複数の会議室利用や展示・交流スペースとしての利用等、新しいニーズに応える場として再生され、2011年には国の登録有形文化財にも登録され、日本を代表するモダンイズム建築の一つとして評価されています。今回、アトリウムでの懇親会を予定しております。色々な用途に使える名古屋大学豊田講堂は、50年以上前に設計された建物とは思えない近代的で素晴らしい建物です。

ここで、名古屋周辺の名所をいくつかご紹介致します。観光スポットへの移動手段は主に、地下鉄とバスです。地下鉄や市バスが1日乗り放題の一日乗車券がおすすめです。一日乗車券はバス専用、地下鉄専用、バス・地下鉄共通の3種類があり、さらに、一日乗車券を見せるだけで入場料などの割引を受けられる施設もあります。土・日・休日（土曜・日曜・休日ダイヤ特別運行日含む）および毎月8日限定の「ドニチエコミっぷ」は、大人600円でお得です。

**○名古屋市科学館（開館時間9：30～17：00）**

世界最大のプラネタリウム

地下鉄東山線・鶴舞線の伏見駅から徒歩5分。白川公園に向かって歩いて行くと、大きな球体のビルが目の前に現れます。ここは科学に関する様々な展示や体験ができる「名古屋市科学館」です。このビルのシンボルである球体の内部に、ギネス世界記録に認定された世界最大のプラネタリウム「Brother Earth」があります。

1962年に開館した名古屋市科学館のプラネタリウムは、2011年にリニューアルオープン。本物の星空かと思うほどの高画質と迫力の音響システムが特徴のプラネタリウムドームに、一度、足を運んでみてください。

また、ここは、1日ではまわりきれないほど展示が充実した日本有数の体験型科学館です。「竜巻ラボ」「放電ラボ」「極寒ラボ」などがあります。また、金属の重さを体験できるコーナーもあります。大人もワクワクしてしまう観光スポットです。

**○トヨタ産業技術記念館（開館時間9：30～17：00、栄生駅（名古屋本線）から徒歩3分）**

トヨタ産業技術記念館は名古屋市西区にあり、豊田自動織機製作所栄生工場を産業遺産として保存している施設です。豊田佐吉氏が発明した環状織機や100年以上前に作られた蒸気機関などが展示され、中部地方がトヨタ自動車の製造の中心地として知られるようになった過程を学べ、豊田グループのモノづくりの歴史に触れることができます。また、12のオリジナル体験遊具が揃うテクノランドでは、モノづくりの楽しさを体感できます。施設内には、図書室やレストランも併設されています。（吉田 泰子）